

令和二年度 奈良県知事賞

「私達のために使われている税金」

奈良市立平城西中学校 三年 道上 桜子

「昔はバイクで校舎の中を走り回ったり、気がつくとも窓が割れていたりすることはよくあったんだよ。」

と塾の先生が言っていたのを覚えている。面白半分でこれをやっていたとして、窓の代金を弁償して、バイクでどこかを破損させたらそれも弁償して、それで解決したことになるのだろうか。もちろんこの行為によって、ケガ人が出るのが一番良くないが、物を壊すことを軽く考えてはいけない。

学校の校舎、教室の机や椅子、体育の授業で使うボールや跳び箱など、私達が普段、学校で使っているものは、周りの大人達が必死に働いて納めた税金によって購入されている。調べてみると、国や地方が負担している年間教育費は、公立中学校に通っている生徒一人当たり、約101万5千円にも上ることが分かった。こんな大金が私一人のために使われていることに驚いた。私が思っている以上に、私は税金というものに関わりがあることが分かった。

この税金には、頑張っって学習して、これからの日本を担って行ってほしいという思いが込められている。学校のものを大切にせず、壊すということは、この思いを踏みにじることと同じだと思う。物を大切に使うという当たり前のことが、私達のために税金を納めてくださっている人達への感謝の気持ちを表しているということではないだろうか。

私の通っている中学校は、来年から小中一貫校になる。私は、今年中学校を卒業するから、直接は関係ないが、自分の通っている中学校がきれいになることを嬉しく思っている。中学校の敷地内に新しく小学校用の体育館が建設され、校舎も改装され、タブレットも一人一台用意されるそうだ。そのためには、多くのお金が必要になる。そして、そのお金は税金によってまかなわれるだろう。多くの人達に支えられて建てられる学校を、社会の財産として大切に使用して行ってほしいと思う。そしてこの学校を、長く後世に残していきたい。

今回、この作文を書いている途中で改めて気づかされたことがある。それは、毎日学校に行って、学習できることは当たり前ではないということだ。大人達が税金を納めてくれているおかげで、自分の興味があることを精一杯勉強することができている。それをいつしか当たり前のことだと思っていた。何も不自由なく、当たり前で勉強できている私は、とても幸せだと思う。日々、人々への感謝の気持ちを忘れず、これからの学校生活を送っていきたい。そして、私が大人になったら、今までの恩返しの気持ちを込めて、しっかり税金を払おうと思う。